

国語科における令和4年度の授業改善推進プランの検証

取り組みの成果と課題

【知識・技能】【主体的に学習に取り組む態度】

昨年度、漢字や文法問題では間違えた箇所は必ず直したり、国語辞典やタブレットを利用して習熟を図ったりしてきた。令和5年度大田区学習効果測定では「主語と述語」「修飾語」などの文法の項目では、目標値を上回った。学年の漢字を読むことはほぼ目標値であったが、書く力が特に5、6年生で目標に達していなかった。また、漢字辞典の使い方は目標値に達していたが、国語辞典の使い方が不十分であった。

大田区漢字検定2月の結果の全校合格率は63%で3ポイント上がった。また、合格率に達していなかった学年は令和4年度では5、6年（現6年・中1）のみとなった。自分の目標を設定し、繰り返し努力をした結果を出せたものである。あらかじめ出題パターンや範囲が分かっていたら、繰り返し反復学習することで成果を上げることができることが分かった。

【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】

説明文を読み取る力は、4、5年生で目標値にはほぼ達している。しかし、4、5、6年とも、文章を書く設問で目標値をほぼすべて下回っていた。特に4、6年生で無回答が目立つ。尚、同分野でも設問が選択肢の問題は、目標値に近かった。理科、算数、社会でも理由を文で説明する設問では正答率が低く、無回答率が高い。書くことに対する苦手意識だけでなく、処理速度（設問が最後にあり、時間が不足していた児童も多かった）や集中力の欠如も要因としては考えられる。昨年度も課題として設定し、様々な場面で書く活動を取り入れてきた。引き続き取り組むべき課題である。

【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】

聞き取る問題については、比較的目標値に近い、または上回る結果となった。本校の研究副主題である「自分も相手も大切にする言語能力の育成」に沿って、様々な教育活動で対話を取り入れてきたためと思われる。

しかし、日常生活の場面では言葉が十分でないためにトラブルになるケースも学年問わず見受けられる。

国語科における課題

【知識・技能】 学習した漢字の読み書きが定着していない。

【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 「書く」こと自体への苦手意識があり、「書く力」が不足しているために国語科のみならず他教科の思考面にも影響が出ている。

【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】 学習や生活の場面で相手に自分の考えを十分に伝えるための語彙が不足している。

国語科における改善策

【知識・技能】 前年度までに学習した漢字の読み書きの定着を図る。

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日宿題で読み書きの反復練習を、また、定期的に既習漢字の読み書き小テストを行い、児童一人一人の定着を把握する。間違えた漢字は、必ず直させる。 ・ 分からない漢字は、その場でドリルや教科書を使って調べる習慣を身に付けさせる。 ・ 「書くって楽しいね」やタブレットのドリルを活用して、文の組み立てについて、繰り返し学習を行う。また、ミニゲームの手法で文法に親しむ時間をとる。 ・ 国語の授業中だけでなく、各教科で日常的に既習漢字を書く習慣を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日宿題で読み書きの反復練習を、また、定期的に既習漢字の読み書き小テストを行い、児童一人一人の定着を把握する。間違えた漢字は、必ず直させる。 ・ 分からない漢字は、その場で辞典やドリルを使って調べる習慣を身に付けさせる。 ・ 「書くって楽しいね」やタブレットのドリルを活用して、主語・述語や修飾語など文法についての繰り返し学習を行う。また、ミニゲームの手法で文法に親しむ時間をとる。 ・ 大田区漢字検定に向けての取り組みを計画的に行い、朝学習や家庭学習などで繰り返し取り組ませる。 ・ 国語の授業中だけでなく、各教科で日 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日宿題で読み書きの反復練習を、また、定期的に既習漢字の読み書き小テストを行い、児童一人一人の定着を把握する。間違えた漢字は、必ず直させる。 ・ 漢字のもつ意味を考えさせ、同音異義語などを正しく使えるようにする。分からない漢字などは、その場で辞典やドリルを使って調べる習慣を身に付けさせる。 ・ 「書くって楽しいね」やタブレットのドリルを活用して、主語・述語や修飾語など文法についての繰り返し学習を行う。また、ミニゲームの手法で文法に親しむ時間をとる。 ・ 大田区漢字検定に向けての取り組みを計画的に行い、朝学習や家庭学習

	常に既習漢字を書く習慣を身に付けさせる。	などで繰り返し取り組ませる。
--	----------------------	----------------

①【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】「書く」こと自体への苦手意識を減らし、「書く力」を伸ばす。

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の1行日記や、週に一度の日記などを取り入れる。 ・行事の後の手紙交流「つながりの木」で相手を意識した作文の機会を多く取り入れる。 ・自分の身近なことや経験したことなどを、発達段階に応じて分かりやすく書く場面を多く設ける。 ・書いたものを、ペアやグループ、壁面掲示などで読み合う活動や場を設ける。 ・書くことが苦手な児童のために、文型の例を用意し、活用する。 ・自分で書いた文章を読み直す習慣を身に付けさせる。「は、を、へ」や主語述語のねじれや繰り返しなどの基本的な間違いに気付かせる。 ・「えんぴつでおしゃべり」ゲームなど、思ったことを書いて伝える遊びを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員や保護者、友達、異学年など様々な対象に文章を書いて伝える学習場面や、行事の後の手紙交流「つながりの木」で相手を意識した作文の機会を多く取り入れる。 ・書いたものを、ペアやグループ、壁面掲示などで読み合う活動や場を設ける。 ・作文が苦手な児童のために、文型や構成を手助けするワークシートを用意し、活用する。 ・文章を再考する視点を与えて、自分が考えた文章が相手に伝わりやすいか振り返る習慣を身に付けさせる。 ・「えんぴつでおしゃべり」ゲームなど、思ったことを書いて伝える遊びを取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員や保護者、友達、異学年など様々な対象に文章を書いて伝える学習場面や、行事の後の手紙交流「つながりの木」で、相手を意識した作文の機会を多く取り入れる。その際、対象によって言葉を使い分けることや、理由や事例が含まれていることなどの視点を与えて、自分で再考する習慣を身に付けさせる。 ・作文が苦手な児童のために、構成を手助けするワークシートを用意し、活用する。 ・原稿用紙複数枚以上になるような長い作文では、タブレットのワープロ機能を使い、推敲した結果を比較的手軽に校正できるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> ・他教科の学習ノートやワークシートでも、考えたことや大事なことをメモできるようにする。また、ノートやタブレットでの短文による学習のふり返りを日常的にさせ、書き慣れさせる。 		

②【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】学習や生活の場面で相手に十分に伝えるための語彙を増やす。

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none"> ・週3回の朝読書や週1回の図書の時間を活用し、教科書の他にもたくさんの本に触れさせる。また、読書学習司書による本の紹介や地域のボランティア「翼の会」による読み聞かせを行い、語彙を広げるための読書の幅を広げさせる。 ・読書の記録を活用して、読書活動に生かせるようにする。 ・他教科領域でも、書いて考えたり、まとめたり、伝えたりする機会を意図して設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人持ちの国語辞典を机の横に常時掛けておき、分からない言葉や書き方が分からない漢字をすぐに調べられるようにする。また、調べたページに小さい付箋を貼り貯めていき、卒業までに調べた実績が視覚的に分かるようにする。 ・新出漢字や語彙の授業で、その字を使う言葉や短文をノートやタブレットなどに書かせ、発表させる時間をとるようにする。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・言葉集めリレーや、しりとり、言い換えゲームなど、遊びを通して語彙を増やす。 ・初めて教材文に出会った時に、言葉を本当に理解できているか教師が意図的に確認する。また、知っている児童に別の言い換え表現を言わせる。 ・ひらがな・カタカナや新出漢字の授業で、その字を使う言葉を発表させたり、短文をノートに書かせたりする。 		